

1. 候補樹木

(1) 概要

指定番号	230	樹種	クロマツ	呼称	熊野神社の黒松
推定樹齢	約300年	樹高	20.0m	幹周	350cm
枝下高	6.5m	枝張り	東西14.1m・南北14.2m		
所在地	宮城野区鶴巻一丁目9-6（熊野神社内）				
所有者	熊野神社				
指定内容	保存樹木及び樹木保存区域の指定				
指定基準	杜の都の環境をつくる条例 施行規則第13条第1号、同第2号、同第4号				

(2) 位置



図1 位置図（広域）



図2 位置図（拡大）

(3) 候補樹木の外観



写真1 候補樹木全景（北側より撮影）



写真2 候補樹木全景（南東側より撮影）

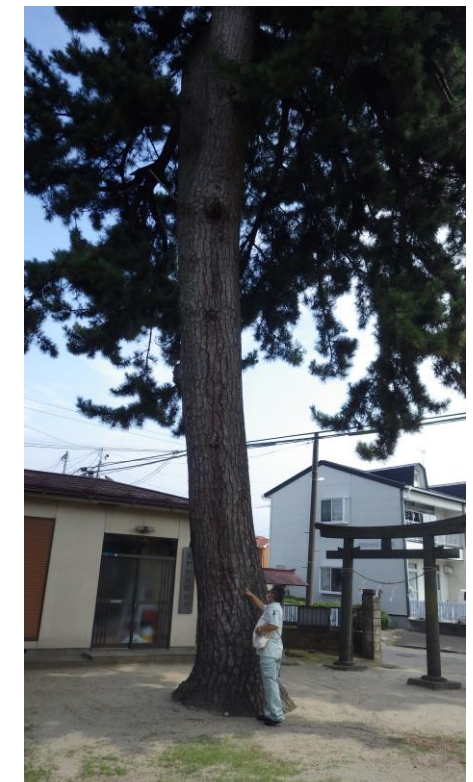


写真3 樹幹と枝葉の状況（南西側より撮影）

2. 候補樹木の詳細

(1) 来歴等

候補木は熊野神社の鳥居と社殿との中間あたりに生育している、直径1mを超える大木である。植栽された経緯等は伝わっていないが、大きくどっしりとした根株から樹幹がわずかに蛇行しながら天に向かい、そこから伸びた濃緑色の枝葉が自らの重みで枝垂れている立ち姿は、この木が過ごしてきた長い年月を偲ばせ、古来から神社のご神木として大切にされてきたことが伺える。熊野神社は概ね平坦な住宅地内にあるため、当該木は鳥居の手前にあるモミと共に遠方からもよく見え、地域のランドマークとしても地域住民に親しまれている。

(2) 樹勢調査結果

候補木には過去に罹患したこぶ病による欠損や、強剪定に起因する太枝の枯損が見られるが、他の枯枝や葉の変色など、マツ類で特に懸念されるマツノザイセンチュウへの罹患の形跡は、周辺では発生が見られているものの、本樹木については確認されなかった。盛土が根際まで行われていることが樹木への懸念材料として指摘されているが、現在のところそれらの影響は感じられず、樹勢は総じて健全で生育旺盛と言える。

(3) その他

候補樹木は、保存樹木指定について所有者である神社から要望があり、現地調査及び樹木医診断を行った。

候補木の樹勢に影響を及ぼす可能性がある点が現地調査により指摘されたが、この点を踏まえた今後の適切な管理により、候補樹木は今後も十分に保全を図ることができるものと判断される。

本市が保存樹木に指定したクロマツは11件（11本）が現存しており、伊達政宗の居城であった若林城（現宮城刑務所）の「古城の黒松」や、伊達家臣宅の庭園から移植した「憧景の松」など、臥竜松として仕立てられた樹木がある一方、令和3年に指定した宮城野区蒲生の「和田の松」など、ほぼ自然樹形と考えられるものもある。候補木をこれら自然樹形のクロマツと比較すると、候補木の幹周350cmは最大、樹高20mは3番目の大きさとなり、樹勢が健全なことと相まって、地域のみならず仙台市内においても貴重な樹木である。

3. 樹木保存区域の設定

保存樹木の樹木保存区域は樹木の存する土地の樹冠投影範囲を基本とすることから、現地測量結果に基づき、境内内において社務所等に重なる部分等を除いた樹冠投影範囲（A=96.96㎡）を樹木保存区域に指定する。（図3、図4参照）

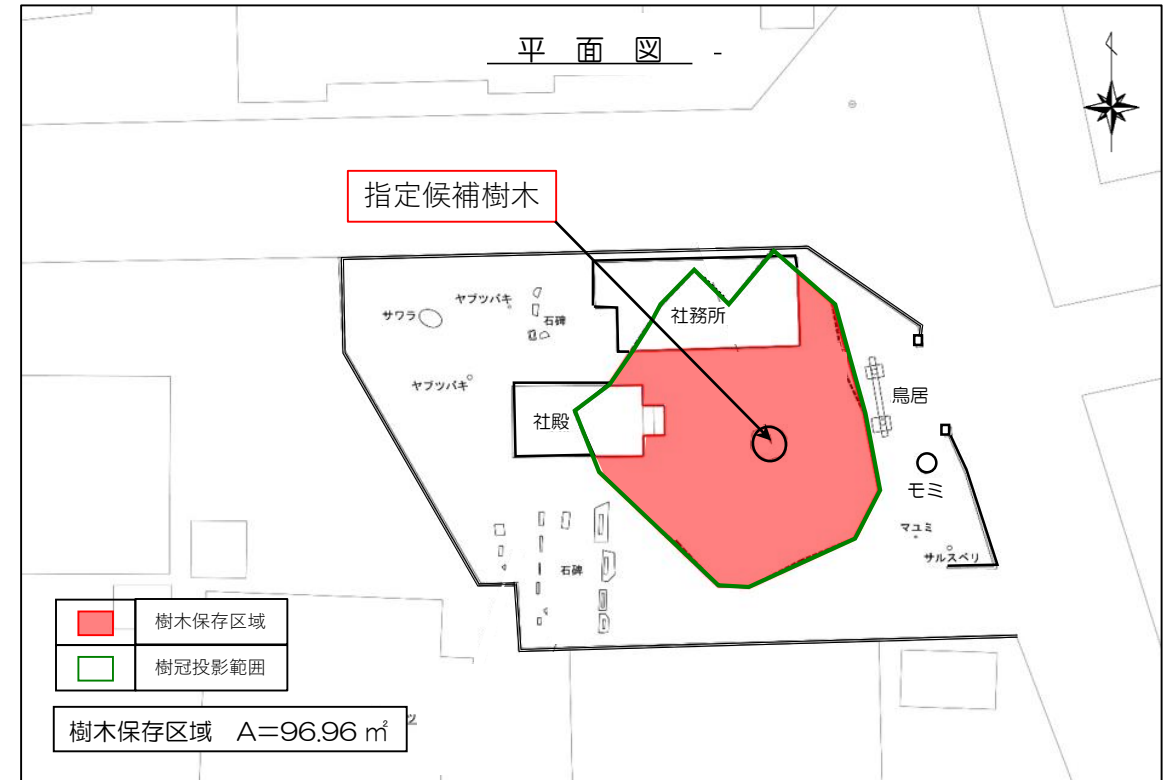


図3 樹木保存区域平面図

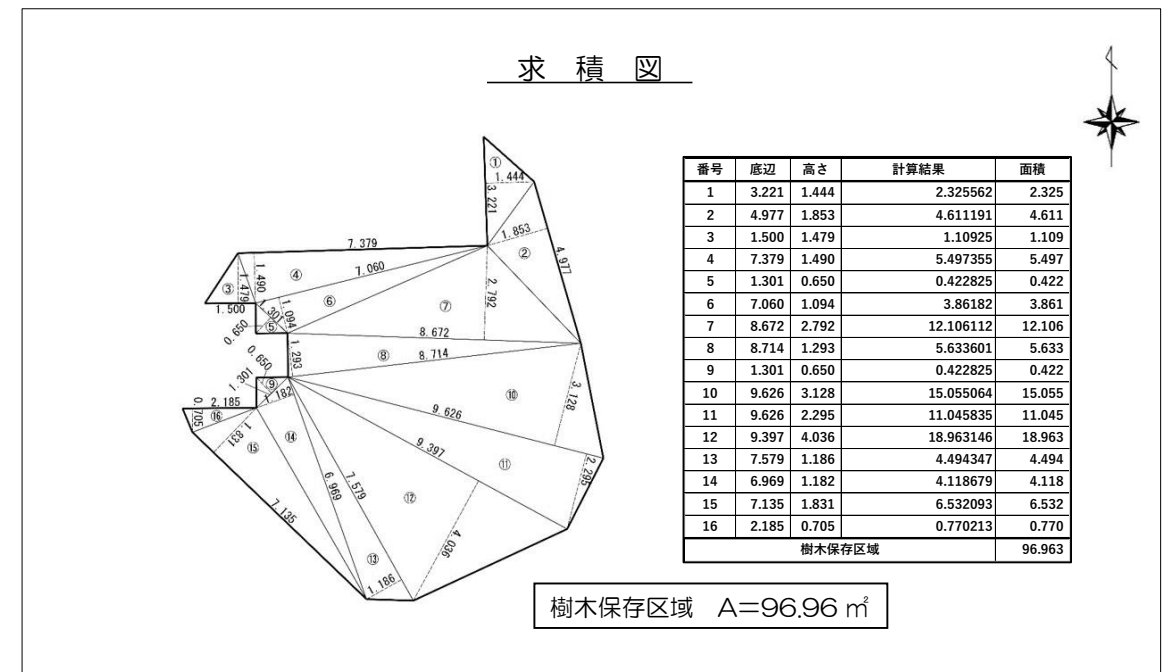


図4 樹木保存区域求積図

以上より、本候補樹木は、保存樹木の指定に関する基準を満たしており、指定に相応しい樹木であると考えられる。